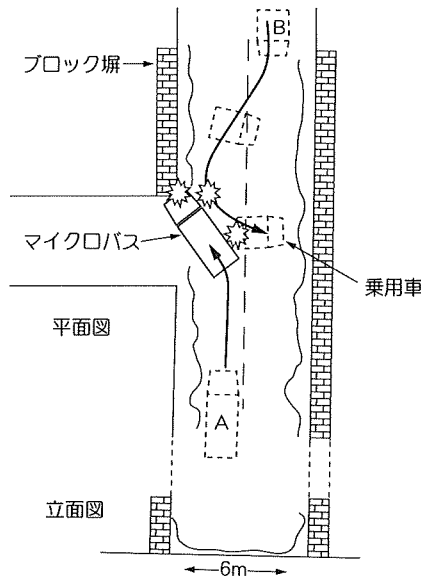


事例 28 スリップした対向車を避けようとして道路脇の塀に衝突し、更にスリップした対向車に衝突され被災

発生日時	1月某日午後4時頃	天候	雪
道路状況	海岸線を走る国道。路面圧雪・道路脇にたまった雪のため道幅は片側約3mとなっていた。速度制限40km/h		
事故災害の内容・程度	衝突によりマイクロバスの乗員8名が負傷した。乗用車（四輪駆動）の運転者には怪我はなかった。		

見取図



発生状況

送迎用マイクロバスで労働者を送迎中(帰宅時)、対向してきた乗用車が圧雪路面でスリップし、横向き状態でセンターラインを越えてきたため、危険を避けようとしてマイクロバスが道路左側にハンドルを切ったところ、道路脇のブロック塀に正面から衝突し、更にマイクロバスの側面部分にスリップしてきた乗用車が衝突したものの。

- ◎ マイクロバスの速度—30km/h 乗用車の速度—40km/h
- ◎ マイクロバス車幅—2.2m 乗用車幅—1.78m

災害原因となった問題点（危険要因）

- 1 乗用車が対向してきたマイクロバスをかわそうと、急ハンドルをきったためスリップしたこと。
- 2 乗用車が道路状況に応じた速度で走行していなかったこと。
- 3 道路脇の雪のため道幅が狭くなっていたこと。

災害防止対策

- 1 道幅の狭い道路で対向車とすれ違う場合は、対向車に道を譲るなど、事故回避を考慮した運転を行うこと。
- 2 雪のため道幅が狭くなる場所やスリップ事故の発生しやすい場所などを網羅した交通危険マップを作成し、運転者の注意を喚起すること。
- 3 雪道での運転技能を向上させるため、教育訓練を実施すること。

事例研究会における検討内容等〔ポイント…防衛運転の重要性〕

- ◎ コメント
道路上には利己主義に支配された運転者が多く見られる。常に防衛運転と万一の被害を最小限にするためのシートベルトの着用を心がけることが大切である。